

ふたりのアダム

ジェイコブ・プラッシュ

旧約聖書の多くの箇所、よみがえりというテーマが語られています。

ヨブが死に瀕していたときも、『私の皮が、このようにはぎとられて後、私は、私の肉から神を見る。この方を私は自分自身で見る。私の目がこれを見る。』(ヨブ 19 章 26 節-27 節) と言いました。

そして預言者ダニエルも、「よみがえりが存在し、その中である者は裁かれ永遠のそしりに入り、ある者は栄光と恵みを受ける」と書き記しています。(ダニエル 12 章 1 節-3 節)

ラビ・ガマリエル

使徒パウロはエルサレムにいたラビ・ガマリエル (*Gamaliel*) という人の弟子でした。このガマリエルはユダヤ教の中でも特に重要な人物です。タルムードによると、彼は偉大で聖なるラビだったので、彼がこの世を去ったとき「地上から義が無くなった」とまで書かれているほどです。

私たちは使徒の働きでこのガマリエルについて読むことができます。(使徒 5 章 34 節-39 節) この有名なラビは言いました。「もし、イエスがユダヤ人にとってのメシアでなければ、キリスト教徒の信仰は滅びてしまうだろう」

世の中には多くの偽メシアがいたり、多くの者がそう名乗ったりしています。しかし、彼らはすべて現れては消えていきます。ムーブメントを起こしはしますが、すべて消えていくのです。ガマリエルは使徒の働きの中で、イエスがメシアでなければキリスト教は滅ぶと言ったのです。しかし、それは滅びませんでした。

ガマリエルはもうひとりの有名なラビ、ヒレル (*Hillel*) の孫でした。パリサイ人には二種類あります。ひとつは、「ヒレル学派」として知られるラビ・ガマリエルのイエシバ (*yeshiva*) で学んだ者たち、もうひとつは、「シャンマイ (*Shammai*) 学派」で学んだ者たちでした。パウロの時代にはガマリエルによって運営されていたヒレル学派は、多くの著名なクラスメートを抱えていました。そのひとり、ラビ・オンケロス (*Onkelos*) と呼

ばれる者で、彼は旧約聖書のヘブライ語をアラム語に翻訳しました。それはタルグム・オンケロス (*Targum Onkelos*) と名付けられています。

そして、また別のふたりのクラスメートがいました。ひとは、ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイ (*Yochanan ben Zakkai*) と呼ばれる者です。彼が会堂を神殿と置き換え、ラビ的ユダヤ教を始めました。

メシア

預言者ダニエルは、メシアが第二神殿が破壊される前に来て、死ななければならないと預言しました。(それはタルムードの中でも見ることが出来ます) その神殿は紀元 70 年に破壊され、イエスさまがマタイ 24 章やルカ 21 章で予告したことが成就しました。

メシアが誰であろうと、彼は紀元 70 年までに来て死ななければならなかったのです。そればかりではなく、イザヤ書によると、そのメシアは異邦人がユダヤ人の神を信仰することへと導くとあり、またさらにミカ書によると、ベツレヘムで生まれなくてはならないとあります。タルムードもこれらの預言がメシアについてであると説明しています。ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイらは問題を抱えていることを知っていました。なぜなら、神殿が無くなってしまったのでモーセが与えたユダヤ人の宗教は、もはや実行出来なくなったからです。そこで、彼らは“ラビ的ユダヤ教”と呼ばれる別の宗教を作ろうと決心しました。

それからおよそ三百年後、コンスタンティヌス帝はキリスト教に対して同じようなことをしました。イエスが与え、使徒たちが教えたユダヤ的なキリスト教の代わりに、それを異教的またヘレニズム的にしたのです。福音書に対する初めの信仰を取って代え、別の宗教を作りました。従って“キリスト教”はもはや聖書的ではなくなり、ローマ・カトリック教会や東方正教会のような組織となり、ユダヤ教と同じように非聖書的になりました。

死者の復活

しかし、ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイにはもうひとりのクラスメートがいました。それは、私たちが使徒パウロと呼ぶ、タルソのラビ・サウロです。彼は、神さまがご自分を現わすのを良しとされるまで、キリスト教徒を嫌い迫害していました。

『彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。』(使徒 9 章 5 節)

彼もダニエルのように、よみがえりについて語りました。

『死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものによみがえらされ』(1 コリント 15 章 42 節)

いつか私たちの体は地に戻りますが、違ったものになって復活するでしょう。

『卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ [イエスの体のように]、血肉のからだで蒔かれ、御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですから、御霊のからだもあるのです。

聖書に「最初の人アダムは生きた者となった」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。最初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものはあとに来るのです。

第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人は天から出た者です。土で造られた者はみな、この土で造られた者に似ており、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。

私たちは土で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。

兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。』(1 コリント 15 章 43 節ー50 節)

ふたりのアダム

ふたりのアダムが存在します。神から見ると、地球上の歴史ではたったふたりの人しか存在していません。アダムとイエス、最初のアダムと最後のアダムです。かつて地上に存在したすべての人、そして存在するであろうすべての人は最初のアダムに属しているか、最後のアダムに属しているかどうかです。

アダムとイエスの体は、神ご自身によって直接創造されました。どちらも罪のない状態で造られたのです。なので、両者のうちに墮落した性質は何もありませんでした。

最初のアダムは誘惑され墮落し、後にダビデ王は『罪ある者として母は私をみごもりました。』（詩篇 51 篇 5 章）と語っています。私たちが身体的な特徴を遺伝的に伝えるように、罪もまた伝わるものなのです。私たちは墮落した性質を持っており、すべての人が最初のアダムに属しているのです。

神の裁きから逃れ、自分の犯した罪の代価を払わずに、永遠に生きるため、私たちは最後のアダムによって生まれなければならないのです。

ミドラッシュ

ここでタルソのラビ・サウロが用いているのは「ミドラッシュ」と呼ばれるものです。このようにしてユダヤ人は聖書を解釈していました。

ラビ・ガマリエルが考案した、聖書を解釈するための 7 つのルールがあります。最初のルールはカル・バ・ホメル (*kal va homer*) と呼ばれ、文字通りには「軽いものから重いものへ」という意味です。ある事柄が一般的な状況に適用できるならば、特定の状況にも適用でき、さして重要ではない状況で真実なことは、差し迫った状況でも真実であるというものです。

二つ目は、ビンヤン・アブ・ムシュネ・ケトゥビーム (*binyan ab m'shne ketubim*) と呼ばれるもので、神学的な論拠をふたつの箇所から構築するということです。

タルソのラビ・サウロはこれらふたつのミドロット (*midroth*=解釈のルール) を用いて、アダムについて説明をしています。

アダムを解釈する

『さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」

そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。』(創世記 3 章 1 節-7 節)

私たちはここで起こったことを理解しなければなりません。蛇は欺くものであり、サタンの霊的な欺くものとしての性質を象徴しています。

蛇はすでに園の中に存在しました。神はアダムとエバを造られたとき、彼らに地を支配せよと命じたのです。

世はまだ墮落していなかったのですが、サタンはどのようなわけか野放しにされていたので、支配される対象でした。アダムとエバはそれを支配すべきでした。それゆえ、彼らは悪が存在していることを知るべきでしたが、それを彼らの性質の一部として経験的に知ってはいけなかったのです。

欠けているところは無いが、完全とはされていない

もし、あなたに生まれて数日の幼子がいるとして、その子が至って健康なら素晴らしいことです。

その幼子に悪い点は何もないのですが、その子はまだ完全ではありません。幼子は育たなければなりません。何も欠けてはいないのですが、完全にはされていないのです。アダムとエバも同じように、悪い点は何も無かったのですが、完全にはなっていませんでした。彼らが完全とされるには、いのちの木の実を食べ永遠のいのちを持ち、神の子どもとなりその性質を受け継ぐことが必要でした。

その代わりに、彼らは善悪の知識の木の実を食べることを選び、サタンが創造の以前に試みたように、神から独立して彼ら自身が神々となろうとしたのです。サタンは自分が行ったことに彼らをいざないました。アダムとエバがまさに欲していたもの——支配、権威、

いのち——これらは罪の無い状態で、神がいずれにせよ与えようとされていたものなので。最初のアダムと最初のエバはそのチャンスを無駄にしまいました。

私たちの象徴

このすべてのことは象徴です。イエスが最後のアダムであったことを思い出してください。アダムはイエスの象徴で、エバはイスラエルの象徴、ひいては教会を示しています。その蛇は彼の妻である教会を通して、絶えずイエスに攻撃をしかけようとしてくるでしょう。最初のアダムは失敗しました。どのようにしてでしょうか？

『その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。』（創世記 3 章 6 節）

『世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。』（1 ヨハネ 2 章 15 節）

彼女はそれが、まことに食べるのに良く（肉の欲）、目に慕わしく（目の欲）、賢くするというその木はいかにも好ましい（暮らし向きの自慢）ことを見ました。

最初のアダムは失敗したのです。

結果として、私たちはみなアダムの墮落した肉の性質を受け継いで生まれてきました。

それゆえ、『血肉のからだは神の国を相続できません。』（1 コリント 15 章 50 節）と書かれているのです。それは墮落してしまったからです。

最初のアダムの犯した失敗を取り消すために、最後のアダムが必要でした。それがまさに神の約束してくださったことなのです。

最後のアダム

『わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫 [ラビたちはこの子孫はメシアであると告げています] との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとかみつく。』（創世記 3 章 15 節）

メシアはそのかかるとに傷を受けます。蛇は彼を殺しはしますが、後に死者からよみがります。その後、メシアは蛇の頭を踏み砕き、蛇を滅ぼすでしょう。

統治主義である、「神の国は今 (*Kingdom Now*)」という教えを信じている人たちを警戒してください。彼らは教会が勝ち誇り、蛇の頭を踏み砕くだろうと言っています。それは聖書の言っていることではありません。女が蛇の頭を砕くのではないのです。その子孫であるメシアがそうするのです。「神の国は今」という教理は悪魔の策略であり、私たちが神のようになれるということを考えさせます。それは霊的な誘惑の一種です。多くの誠実なクリスチャンがそれに加わっていますが、とても危険で全く虚偽の教えです。

荒野での誘惑

さて、パウロはこの“最後のアダム”というアイデアをどこから得たのでしょうか？彼はミドラッシュを用いました。

『神である主は土からあらゆる野の獣と、あらゆる空の鳥を形造り、それにどんな名を彼がつけるかを見るために、人のところに連れて来られた。人が生き物につける名はみな、それがその名となった。』（創世記 2 章 19 節）

創世記のこの箇所では、アダムがひとりあらゆる獣とともにいたとあります。

『そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。イエスは四十日間荒野にいて、サタン誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。』（マルコ 1 章 12 節–13 節）

ミドラッシュはその性質上、神学的な論拠をふたつの聖書箇所から構築します。マルコの福音書 1 章は、創世記の描写をもう一度描き出しています。最初のアダムがひとり獣とともにいたように、今度は最後のアダムがひとり獣とともにいるのです。

最初のアダムに何が起こったのでしょうか？肉の欲（食べるのに良く）、目の欲（目に慕わしく）、暮らし向きの自慢（賢くするというその木はいかにも好ましい）を抱いたのです。

サタンは何を用いてイエスをだまそうとしたのでしょうか？

『あなたが神の子なら、この石がパンになるように、命じなさい。』(マタイ 4 章 13 節)

エルサレムの東にあるユダの荒野には、ちょうどひとかたまりのパンに見えるような岩があちこちにあります。普通の状態ならマクドナルドはジャンクフードに過ぎないでしょう。しかし、七日間の断食を終えた時なら、そこがグルメ向きのレストランに見えるものです。なぜでしょうか？肉の欲のためです。

『今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。』(マタイ 4 章 8 節-9 節)

目の欲、世の富と美しさは私たちに刺激を与える通り道です。

また『悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる』と書いてありますから。』(マタイ 4 章 6 節)

罪深い生活の自慢、御父の心遣いを出し抜いて、サタンはショーのようなものをさせようとしました。

神が人となる

サタンは最初のアダムに対して行ったことを、最後のアダムに対しても試みます。最初のアダムを騙すことには成功しました。その結果として、私たちは墮落した性質をもって生まれてきたのです。しかし、最後のアダムは肉の欲や目の欲、暮らし向きの自慢には見向きもしませんでした。まさにイエスこそが、神が人となったその人なのです。

『ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。』(イザヤ 9 章 6 節)

イエスがそのような奇跡を行うことは可能でしたが、彼は御父のされることを見て、ただそれだけを行ったのです。

イエスがガラリヤ湖の水の上を歩いたのは、彼が神であったからではありません。

5 千人に食べ物を与えたのも、彼が神であったからではありません。彼はそうすることも出来たでしょうが、そうはしませんでした。彼はただ、彼を通して聖霊がなされることだけ行っただけです。

『キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。』（ピリピ 2章6節）

イエスさまはそのなされることを、私たちと同じ程度まで制限されました。

サタンの働き

最初のアダムは完全に失敗しました。しかし、今度は御霊が最後のアダムを、獣とともにいる所へと導きました。そして蛇が現れたのです。

初めサタンは肉の欲について試みましたが、それはうまくいきません。また、目の欲や高慢さに関して彼を試みましたが、それもうまくいきませんでした。ここで、注目してほしいのがイエスさまはサタンの持つ権威に関して、何も疑いを持っていないということです。サタンが「これらのものは全て私に任されている」と言ったときにも、それに疑問を抱くことをしませんでした。神は地を支配する権威を人に与えましたが、人はそれを悪魔に与えたのです。それゆえ、イエスさまはサタンの権威に対して疑問を抱かなかったのです。

最後のアダムが来たのはサタンのわざが滅ぼされるためであると、聖書は説明しています。イエスはその権威を取り戻し、ご自身をメシアとして受け入れた者に返してくださるのです。

イエスは十字架と復活において、その勝利を得られたと多くのクリスチャンは考えています。それは事実ですが、もしイエスさまが荒野に行って最初のアダムと同じ状況にその身を置き、また彼が陥ったその誘惑に打ち勝たなければ、イエスさまが十字架に向かう資格を得ることは出来なかったのです。十字架に行き私たちの罪の代価を払う前に、イエスさまは最初のアダムがもたらした損害を取り消すことをしなければならなかったのです。ひとりの罪の無い人は神さまにとって、多くの罪ある人たちより価値のあるものです。それゆえ、過越しの子羊は傷のないものでなくてはなりません。

問題の核心は、私たちが全て最初のアダムに属しているので、アダムの罪を抱えているということです。最後のアダムはその罪を持っていませんでした。彼は私たちの罪の代価を払うことが出来たのです。イエスが十字架に行かれたとき、彼は私の罪の代価を払ってくれました。

あなたは最初のアダムか最後のアダム、どちらかに属しています。そして、あなたはその生まれたままの墮落した人種に属しているか、新しく生まれて救われた人種に属しているかのどちらかです。

新しい性質

私たちはユダヤ人であれギリシア人であれ、みなアダムの子孫です。アダムが失敗したので、私たちは誰であっても、肉の欲や目の欲、暮らし向きの自慢によって苦しめられています。それは私たちの墮落した性質です。それがあつために、私たちには新しい性質が必要なのです。

『朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。』（1コリント 15 章 53 節）

私たちは最初のアダムを脱ぎ捨て、最後のアダムを着なければなりません。

『しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた」としてさされている、みことばが実現します。「死よ。おまえの勝利はどこにあるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。』（1コリント 15 章 54 節－55 節）

神はまことに死をもあざけられます。神はそれを“敵”と呼び、あざけります。なぜなら最後のアダムであるイエスが打ち勝ったからです。最初のアダムはそれに陥りましたが、後に来た者は打ち勝ちました。

それゆえ神は私たちを選択を与えられました。あなたは最初のアダムに属するか、最後のアダムに属するか、どちらを選びますか？アダムに属して滅びてしまうか、最後のアダムに属して、永遠に幸せに生き、神の栄光を共有し、神の愛・褒賞・祝福を永遠に喜びますか？それともあなたは死の恐怖のうちに生きたいですか？

聖書は明らかに『人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている』と書いています。そして、私たちはみな有罪なのです。それは永遠の苦しみに値します。

ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイ

ラビ・ヨハナン・ベン・ザッカイはラビ的ユダヤ教の創始者であり、弟子たちからは「力強い金槌 (*mighty hammer*)」と呼ばれていました。彼が死の床にいるとき、弟子たちが来て尋ねました。「おお力強い金槌よ、あなたはなぜ涙を流しておられるのか。」

「私はまさにハ・シテムに会おうとしている、彼の御名がほめたたえられるように。私の目前には二つの道がある。ひとつはゲヘナに続いており、もうひとつはパラダイスにだ。ハ・シテムが私をどちらに宣告されるのか、私には分からない」と彼は言いました。

彼は救いの確信が無いことを認めていました。それはタルムードに記録されています。しかし、彼のクラスメートであるタルソのラビ・サウロは同じく死の床にいるとき、『私は勇敢に戦い、走るべき道のを走り終え、信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。』（2テモテ 4 章 7 節–8 節）と言うことが出来ました。

すべてのユダヤ人は、この二人のラビどちらかに従うようになります。ひとは聖なる神の前に立つときの恐怖に満たされていた者、もうひとはメシアが彼の罪の代価を払ってくださったと知っていた者です。

あなたは最初のアダムか最後のアダム、どちらに属していますか？生まれたままなら、あなたは最初のアダムに属しています。彼に属している者たちは滅び、裁きに会います。そして、私たちは自分の罪の言い開きをしなければならないのです。しかし、あなたが生まれ変わったなら、来るべき御怒りから逃れることが出来ます。

『この曲がった時代から救われなさい。』（使徒 2 章 40 節）

あなたは最初のアダムに属するか、最後のアダムに属するかどちらを選びますか？滅ぶことですか、それとも永遠のいのちを受けることですか？

父親の愛

私は子どもたちのためにしてあげないことが何も無いほど、彼らを愛しています。私の娘

のバテミエルが熱を出したとき、私は一晩中彼女の熱を測っていました。なぜなら、彼女は私の娘だからです。

万が一、私たちの子どもに何かが起こって、病気になったとすると、私たちは子どもの命を救うためにしないことは無いでしょう。神は彼が私たちをどんなに愛しておられるか、それに私たちのために何でもしてくださるということを教えるために、そのような子どもに対する愛を創造してくださいました。

しかし、私たちすべてが死に至るひどい病気を抱えています。それは永遠の地獄へと至らせるものです。その病気が「罪」と呼ばれています。神はひとつの救済策を持っておられます。「人類はアダムのゆえに墮落してしまいました。しかし、私はイスラエルと呼ばれる国民を起こし、それを通して私の“ことば”と私の“息子”を与える。彼は人類を救い、私のもとに引き戻すだろう。」と神は言われました。

悲しいことに、私たちのほとんどは神のもとに戻りたがりません。そして、蛇に従い、死の恐怖に打ち勝つよりも、その中で生きることを好むのです。

代価は支払われた

神はローマ人によって十字架にかけられたメシアの御前において、私たちを選択を与えました。彼は罪を知らず、自分の民の中の宗教指導者に裏切られました——神は何が起こるか知っておられたのです。そして、イエスはあなたの罪、私の罪、また私たちが行ったすべての悪事の代価を払う用意が出来ていたのです。

その代価は支払われました。

それは誰かがあなたに、100万円かかるハワイでの休日を提案するようなものです。でもあなたは「100万円なんて払うことが出来ないよ」と言うでしょう。しかし、その人は「もうそれは支払ってあるよ。ほらここに」と言うのです。

私たちは彼の愛を退けた

その病の治療薬はすでにここにあります。イエスはあなたと私の罪のために十字架にかかったのです。

私たちは何をすべきなのでしょう？それは、アダムのように、私たちがその罪のために神から離れているのを気付くことです。私たちはみな彼に対して反逆しました。その愛を退けたのです。

第二に、私たちは最後のアダムの一部になることを彼に願わなければなりません。それは“新生すること”と呼ばれています。最後のアダムはあなたの内に新しい霊を授け、御自分の子としてくださるのです。

イエスさまを受け入れた者にとって、最初のアダムにある古い性質はイエスとともに十字架につけられました。彼が死者からよみがえったのと同じように、あなたも彼とともによみがえるのです。神があなたに望んでおられることは、自分の罪の赦しを願い、（自分自身のために）あなたの人生を彼に捧げることです。

そうするなら、神はあなたを新しい人へと造り変えてくださいます。また神はあなたが他の信者と会うことを望んでいます。神に祈り、話しかけること、御言葉を読みそれによって生きることを望んでいます。神はどうやってそれが出来るかを教えてくれるでしょう。そして、神があなたに対してなされたことを他の人に伝えることを望んでおられるのです。

選択をする

今、あなたがすべきことは選択をすることです。あなたは最初のアダムか最後のアダム、どちらに属したいですか？

あなたは死の恐怖に打ち勝った人生か、それにつながれた人生どちらを送りたいですか？
あなたはメシアと個人的な関係を持ちたいですか？

もし、そうしたいならば次のように祈ってください。「アブラハム、イサク、ヤコブの神よ。あなたの私に対する愛を知っています。

私があるあなたを愛してこなかったこと、そして、あなたの前と他の人に多くの悪事を行ってきたことを知っています。

私は今のままでいたくありません。しかし、私は私のままでしかなく、あなたはそんな私をも愛してくれていることを知っています。あなたが私を愛してくれているために、あなたは私の今の状態を嫌い、私のしていることを嫌われています。

メシアであるイエスさま、あなたの御子を遣わし、代価を払ってくださったあなたに感謝します。私を新しく生まれさせてください。私はあなたを人生の王として受け入れます。あなたの血によって私を洗い、あなたの子としてください。神である主よ。あなたの御子メシアの名によって、私を救ってください。」

ごく単純なことです あなたは最初のアダム、または最後のアダムのどちらかに属しているのです

ジェイコブ・プラッシュ